大学院特別講義

（医歯学先端研究特論）（生命理工学先端研究特論）
（生命理工医療科学先端研究特論）（医歯理工学先端研究特論）

下記により大学院特別講義を行いますので、多数ご来聴下さい。

記

1．講　師　　鶴見大学歯学部　名誉教授　　福島 俊士　先生

2．演　題　　21|12 欠損のブリッジによる修復

3．日　時　　2019年7月11日（木）17：00～18：00

4．場　所　　7号館【歯学部校舎棟】1階　第1講義室

5．要　旨

一般に欠損歯数が多ければ可撤性の義歯、少なければ固定性のブリッジで補綴修復される。その境界はどこにあるのか？　この問いに対して教科書的には、前歯部であれば4歯連続欠損まで、臼歯部であれば2歯連続欠損までブリッジで可能とされる。すなわち、前歯部では③21|12③までブリッジで可能で、臼歯部では④56⑦、③45⑥はよいが、③456⑦は不可ということになる。今回は限界に位置する 21|12 欠損ブリッジについて検討する。

連絡先：三浦 宏之（岡田 大蔵）
（摂食機能保存学分野 内線5521）